# 園だより

令和４年 11 月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

## 『命の不思議さ』

新田保育園にはチャボがいます。年長児のぞう組が、毎日小屋を掃除し水替え・餌やりをしています。チャボを長年飼い続けているので、卒園児が遊びに来ると「まだちゃぼいるんだ」というのが合言葉のようになっています。もちろん歴代チャボは変わっているのですが、チャボを見ると保育園を思い出すということは共通しているようです。

今飼っているチャボとの出会いは偶然でした。子どもたちが怖がらない白いチャボを探していたのですが見つかりません。地方に探しに行こうと考えていた時、近所に鳥小屋を発見。「すみません。チャボについて教えてください」と、突撃訪問し飼い主の方との交流がはじまりました。「東京の保育園でチャボを飼っているなんて珍しいね」「はい、チャボが死ぬたびに職員会議を行ない、違う生き物にしようかと話しあうのですが、やっぱりチャボがいいねとなるのです」そういうと飼い主の方は笑って、「私もこの鳥たちで最後にしようと思っていたから、若いチャボを持っていきなさい。子どもたちに可愛がってもらえるなら幸せかもしれない」と譲り受けました。

その出会いから５年が経った今年 10 月３日の朝、２羽のチャボのうち１羽が倒れていました。寿命かなと思っていましたが、起き上がって餌を食べる日もあったので病院に連れていくと、メニエル病であることがわかりました。その診断から 11 日目の 10 月 19 日、あーちゃん（子どもたちが考えたチャボの名前）は、息を引き取りました。ぞう組の子どもたちは、動かなくなったあーちゃんを見て様々な反応でした。体をなでて「かわいそう」という子、抱き上げてくちばしをあけ餌をあげようとする子、いつも通りの子、少し離れてぽろぽろ涙を流す子、「メニエルのバカヤローあっちにいけー」と叫ぶ子、「目を開けて、生き返って」と願う子。『あーちゃんは、もう目をあけない、死んだら生き返ることはない』その現実をどの子も受け入れていました。

保護者の方に配布した園だよりには、絵本作家の方がいっていた
生き物を飼うということについての話が書かれています。

あーちゃんはどう感じていたのかな。「ありがとう。あーちゃん」しんみりしている大人の横で、「よし！しろちゃん（もう１羽のチャボの名前）のえさつくろう」と、ぞう組のたくましい声がしました。文責　濱本昌子

＊保育園横の工事現場に、チャボの絵が飾られています。当時のぞう組（現小学４年生）が、飼い主の方にプレゼントするために描いたものです。若かりし頃のあーちゃん・しろちゃんです。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 |
| 11月 | 健康体育（0・1・2歳児） | 冬まつり集会・頭ジラミチェック | | | | | | | 冬まつり集会・健診（0・5歳児） | | 避難訓練 | | | | | 冬まつり集会 | 就学児健診（5歳児） | 誕生会・写真の日・やきいも大会 | | | | 冬まつり総練習 | | | | | | | | 冬まつり総練習② |